

緩和ケアチーム

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

がんと診断されたときから緩和ケアチームに相談を。県内4力所のがん診療連携拠点病院には、心身の苦痛を和らげ、療養生活への支援を行う緩和ケアチームがある。県立中央病院緩和ケア科の医師や看護師らでつくる緩和ケアチームは、治療の初期段階から患者とその家族にかかわり、治療と生活の質（QOL）向上をサポートしている。緩和ケア科医長の許山美和医師によると、チームは医師、看護師のほか、薬剤師、保健師、管理栄養士で構成。主治医の依頼を受け、痛みや吐き気などの症状を和らげる薬を調整するほか、薬物療法や食事のアドバイスをする。退院後の療養先や在宅生活の支援も行っている。

体だけでなく心の痛みにも寄り添う。がんを診断されて戸惑う患者や家族の話聞き、「どう生きたいか」「がんどうに向

診断時から療養を支援

《 62 》

き合っていきたいか」など気持ちを整理し、適切な治療・療養方法を選択できるよう導いていくという。

チームは週一回、病棟回診を行うのに加え、緩和ケア認定看護師の深沢久美副看護師長が毎日病棟に足を運び、患者の訴えを医師につないでいる。一般病棟や外来への緩和ケアの普及も目指し、病棟の医師や看護師とのカンファレンスも実施。がん

患者への対応をアドバイスするなど、医療スタッフのサポート役も務めている。

同病院は昨年、外来通院で抗がん剤治療を受けられる通院加療がんセンターを開設。在宅患者へのケア充実が求められる一方で、同病院はがんの治療を行わない患者に対し、症状を和らげるケアをする緩和ケア病棟も備える。また緩和ケアは末期がん患者に対するケアというイメージが払拭されず、主治医が緩和ケアを勧められないケースもあるという。

許山医師は「緩和ケアは治療と並行して行うもの」と強調。「適切な緩和ケアはQOLを向上させるだけでなく、治療効果も上げることが分かっている。自分らしく生きるために、つらさを我慢せずに相談してほしい」と話している。

■第2、4木曜日に掲載します



がん患者の治療や療養方法について話し合う緩和ケアチームと一般病棟の医師、看護師ら

■甲府・県立中央病院